



二次元の世界を抜けつつあった一人ひとりを思い起こすと、実に個性豊かで、思わずほほが緩みます。ただ作業所のなかでは、彼らの示す「不安定さ」に職員が戸惑うことも少なからずありました。

二次元可逆操作期以降のなかまたちは、日々の仕事と月末の給料との関係を明らかに意識し、「今度のお給料で髪につけるピンを買いたい」「みんなとレストランに行きたい」といった思いをもっていました。だから、職員の「がんばらないとお給料もらえないよ」という声かけで、「そうやった」とばかりに、また仕事に励もうとします。しかし、二次元形成期までのなかまたちは必ずしもそうではありません。お給料と言われてもピンとこないのか、上記の声かけが励ましにはならず、叱られたという表情でシェンとしたり、苛立って自分の手をかんだりするのです。でも、実際のお給料を手にする嬉しさに大事に持ち帰りまします。お札が入っていると「なんだ、こんな紙切れ」とばかりに破ってしまふなかにまに対しては、全部硬貨にしているという話も聞きました。その硬貨で自動販売機の缶コーヒーを飲むのが何よりの楽しみということでした。また、職員にあ

こがれて、職員と同じようなウエストポーチをつけたり、軽トラックに乗りたくて、自分の仕事を放り出して、「バック、バック」の手振りをしに出たりします。「なかまの会」などの自治組織をつくらせているところでは、「お給料をあげてください」「旅行に行きたい」といった要求書が壁に貼られていました。それらの要求について所長と話したり、一人の要求である場合には、「もう一度みんな話してきてください」と返したりすることもあったと聞きました。そんななかで、手洗い場でお湯が出るようになったのは、「なかまの会」の役員が他のなかまと話をし、要求がみんなのものになっていった経緯があるのだと知りました。まさに、「自治は要求から」を実感する出来事でした。

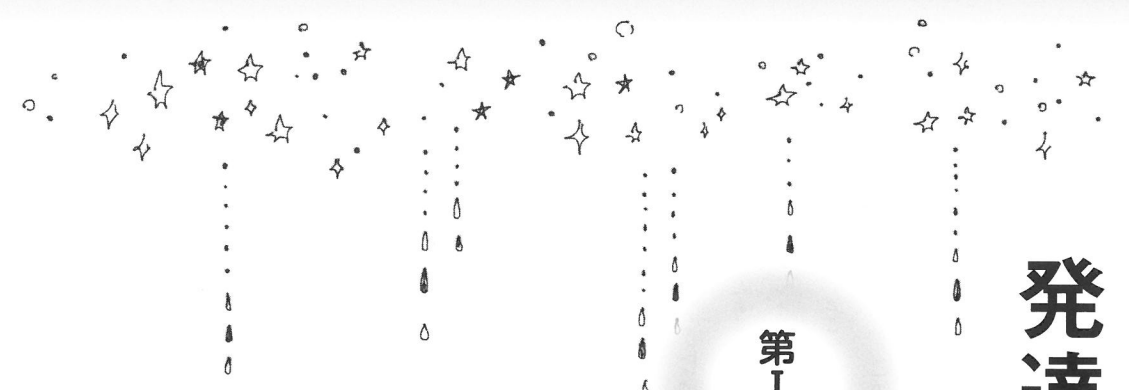
ただ、そうした話し合いに参加していないなかまが必ずいます。もちろん、彼らに対しても職員が声をかけるのですが、水かお湯かといった二択で意思を聞いたとしても、実際に経験していないことはイメージしにくいようです。しかし、給食でのリクエストメニューを選ぶときは本当に嬉しそうです。こうした姿を見て、仕事に対する目的

のつくり方や、自分の要求の意識の仕方に、大きなちがひがあるのではないかと考えました。二次元可逆操作期以降のなかまたちにも、それぞれの課題はあるのですが、「働いてお給料をもらおう」「おとなだから働くことは大事なことだ」「みんなで力を合わせる」という作業所づくり運動の過程で職員たちが大事にしてきた価値観を共有することができているようでした。しかし、二次元形成期までのなかまたちにとっては、そうした価値観が「よくわからないことを押し付けられている」感覚になるのではないかと思うのです。

彼らは決して「仕事ができない」わけでも、「集団に入れない」わけでもありません。労働のあり方を考えるうえで、「何ができるか」「どういう工程を担えるか」だけではなく、彼らがどう世界や自分をとらえているのか、どのような労働観をもっているのかを推し量ることが肝要だと考えます。

**なかまの姿から**

自閉症のサチさんは、さをり織をしています。織る力はあるのですが、声をかけないとすぐに立ち歩いてしまうという



# 発達の中の

# 煌めき

## 第1部

障害のある子ども・なかまの発達

## 白石正久 白石恵理子

しらいし まさひさ / 1957年、群馬県生まれ。小児科病院の発達相談員などを経て、現在龍谷大学名誉教授。

しらいし えりこ / 1960年、福井県生まれ。大津市発達相談員などを経て、現在滋賀大学教育学部教授。

## 第7回 成人期の「労働」から考える —その人らしさが「二次元の世界」を豊かにする

九月号では、「一歳半の節」を越える、それまでの「対」という性質に、「対比」や「比較」というもう一つの性質が加わった二次元的な視点を少しずつもつようになることを述べました。そうして、二歳半頃からの「大きい—小さい」などの対比的認識を拡げていく時期を二次元形成期と呼んでいます。この二次元可逆操作期にむかうための形成期にあたります。しかし、次の段階に急ぐときではなく、今、もっている力を使って外界や自分自身にはたらきかけ、得られた満足感や達成感を他者と共有することが、結果的に次の発達への準備になるのです。

さて、この時期にある成人期の方たちはどのような姿をみせるのでしょうか。

### 作業所づくり運動のなかで

私たちは、一九九〇年頃から、作業所等での発達診断や事例検討会などに参加してきました。利用者のことを「なかま」と呼ぶことも知りました。そこには、一緒に仕事をしている、一緒に地域や社会をつくっている「なかま」という思いがあるのだということも教えてもらいました。